

世田谷区立喜多見農業公園を見学・視察して

伊藤久雄（認定NPO法人まちぼっと理事）

さる9月16日（土）、10時から1時間半ほど、世田谷区立喜多見農業公園を見学・視察した。この視察：見学は、私も会員である府中かんきょう市民の会に設置されている「都市農地・農業保全研究会」（私が世話人）のメンバーを中心に5人で参加した。

今日、都市農業はようやく国や東京都の政策課題として認知され、国においては2015年に都市農業振興基本法を制定した。

◇都市農業振興基本法のあらまし（国土交通省）

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/pdf/kihon_hou_aramasi_3.pdf

また東京都は今年度（2017年度）予算において、東京の将来に向けた農地活用事業として「公有地農業のモデル事業」を創設し、不用となった農地を都が買い取り、多面的機能を活かした優良事例を構築する事業として8億円が措置されている。

農業公園は、都市農業を守り、発展させると取組みの1つとして、区部、市部ともに設置する自治体が増えている。府中市においても、2019年度開設を目標に昨年には「基本方針」が策定されている。

◇府中市 農業公園開設に関する経緯等について

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/gyosei/kekaku/kyogikai/gyosei/nogyokoenseibi/nougyoukouen01.files/siryou5.keii.pdf>

府中かんきょう市民の会はこの間、何度か府中市に対して業公園の開設を要望してきたが、今回の世田谷区立喜多見農業公園を見学・視察は、今後の府中市の農業公園開設に向けて参考にしたいと考え、実現したものである。

■ 世田谷区立喜多見農業公園の施設概要

所在地	世田谷区喜多見 4-16-25
敷地面積	1513 平方メートル
施設内容	農業体験活動施設、農機具倉庫、駐輪場、ユニットトイレ（オストメイト対応）
交通手段	【電車】 小田急線「喜多見駅」または「成城学園前駅」下車 徒歩 30 分 【バス】 東急・小田急バス 玉 07 成城学園前駅—二子玉川駅 「次大夫堀公園前」 下車 徒歩 8 分 小田急バス 玉 08 調布駅南口—（喜多見駅入口）—二子玉川駅 「次大夫堀公園前」下車 徒歩 8 分 ※車でのお来園はできません。

■ 喜多見農業公園とは？ （世田谷区のホームページから）



区民の皆さんが日常的に農に「触れ」「学び」「楽しむ」ことのできる公園です。気軽に足を運んでいただき、野菜の育つ様子を間近に見たり、農作業体験に参加して、ぜひ農業の楽しさや難しさを体感してみてください。

■ 見学・視察の概要

内容：

- ① 農業公園の受託者であるランドプレーン(株)の岡部さんより説明を受ける。
 - 1 世田谷区立喜多見農業公園の開園の目的・経緯
 - 2 農業公園での取組内容
 - 3 平成 28 年度の取組実績
 - 4 喜多見農業公園の管理運営 など （詳細は別紙資料）
- ② この日は講習会の開催日だったため、講習会を見学しながら施設の説明を受ける。
 - ・圃場 ・体験交流施設 ・倉庫（農機具） ・トイレ（オストメイト対応） ・堆肥置き場（残った野菜等を活用した堆肥づくり）

□ 喜多見農業公園の特徴（見学した感想）

- 1 25年度から27年度までの3年間、地域住民を対象に丁寧なワークショップを開催している。ワークショップは、まちあるき、地区の将来像・風景を活かした取組の検討（25年度）、案内板の作成（地元の木材を利用）や農業公園の設えの検討（26年度）、運営体制の検討（27年度）などを行っている。
- 2 受託者であるランドプレイン㈱は開設準備の当初からコンサルタントとして関わり、開園後は受託者となっているが、受託期間は2年間である（28～29年度）。基本的な考え方として、将来的には地元の団体が運営を担うべきだと考えており、次の担い手が育てば撤退する考えである。なお、受託にあたってはプロポーザルがあり、JAと競合したが、ランドプレイン㈱が選定された経緯があった。
- 3 圃場は約1500㎡であり狭いのではと思ったが、意外とまとまっており、狭さは感じなかった。体験交流施設はもう少し広いスペースを要望したとのことだが、区の予算の関係で狭くなったとのこと。農機具はJAからの寄付とのことだった。堆肥置き場は狭く、もう少し広いスペースがあればいいと言われた。
- 4 今年度の受講者15名。当日は12名が講習会に参加していた。講習会の運営には再委託者であるNPO法人世田谷喜多見 農とみどり が参加するとともに、地区の農業者が指導（謝礼あり）している。講習会の参加者の平均年齢は30台後半から40台初めと思われ、若い女性の参加もある。当日は、実に楽しく講習を受けていた。
- 5 ランドプレイン㈱の年間受託料は1200万円で、その中から再委託料としてNPO法人世田谷喜多見 農とみどり に300万円程度支出している。世田谷喜多見 農とみどり は、ワークショップに参加したメンバーが中心だが、農家の主婦の参加もあり、圃場の日常管理を活発に行っている印象であった。
- 6 JAや地元農家との関係は重要だが、課題は多いということであった。

<資料>

- 世田谷区立農業公園について（PDF）